

徳島を四国観光の 玄関口にする(2)

平成最後の紅白歌合戦における米津玄師さんの活躍は実に見事でした。先日、感動のライブの舞台となった大塚国際美術館に行ってきました。大勢の若い人でにぎわい、スマホでシスティーナ・ホールの写真を撮る人が目立つなど、ファンの聖地となりつつあることを実感しました。米津さんは今年上海・台北での公演も決まり、海外での人気も高まってきています。

大塚国際美術館は個人的にもお気に入りの場所で、友人や知人が遊びに来たときを含めて、2か月に1度は訪れています。システィーナ・ホールをはじめとする雄大なスケールに度肝を抜かれる友人たちの反応をみるたびに、世界に通用するクオリティを持っているという思いを強くしています。実際、大塚国際美術館は世界最大の旅行口コミサイト・トリップアドバイザーで国内の「行ってよかった美術館&博物館ランキング」の一位に輝いたこともあります。

ただし、大塚国際美術館を含む鳴門公園エリアは、公共交通機関だけを利用する観光客にとってあまり行きやすい地域とは言えず、とりわけ言葉の壁がある外国人にとって敷居が高いように思われます。また、鳴門公園エリアを周遊したり、鳴門から徳島まで足を伸ばしたりする場合も、交通の便はあまりよくありません。来てもらった観光客に満足してもらい、次の集客につなげることが地域ぐるみでできているとはいいがたいのです。日本を代表する国際空港である関西国際空港から地理的には近い場所にあるだけに、大変もったいない話です。

外国人観光客に来てもらうことが地方創生の鍵を握る時代です。県西部(大歩危・祖谷)は大成功を収めています。徳島県全体でみると外国人観光客の誘客に大きく出遅れています(たとえば旅行者に占める外国人の比率は、徳島県は全国平均の三分の一未満です)。徳島県が外国人観光客の大幅な底上げを実現するためには、キャパが大きい鳴門をはじめとする県東部にもっと大勢の外国人観光客に来てもらうことが不可欠です。

そこで、徳島経済研究所では昨年10月に関西国際空港に近いという地理的条件を活かし、大塚国際美術館などのキラー・コンテンツを活用することで、徳島県にもっと大勢の外国人観光客に来てもらうことを目的とした論文を公表しました。今年2月には、この目的を実現するためのワーキンググループを立ち上げました。さまざまな課題はありますが、米津さんの活躍という追い風も活かしながら、徳島を四国観光の玄関口にすることができるよう、関係者の皆様と一緒にがんばっていきたいと思います。詳しくは「徳島を四国観光の玄関口にする(2)～インバウンド対策のためのWG始動」のレポートをご覧ください。